

参加型農村開発における農民リーダーの役割

- タイ開発 NGO: ECVF の活動事例から -

赤阪京子

キーワード：参加型開発、農民リーダー、有機肥料、地域の自立

1. 研究の目的

開発途上国に対する開発援助では、住民主体の参加型開発によって行われることが主流となっており、多くの援助機関や NGO などによって取り入れられている。参加型開発では参加の過程を通して、途上国の人々が自分たちの生活環境を改善していくための能力を向上(エンパワーメント)し、究極的には途上国の人々の自立を目指している。Eco-Community Vigor Foundation(ECVF)は、農民の自主自立を目指している農村開発 NGO で、農民リーダーの育成や農民ネットワークづくりを支援している。ここでいうリーダーとは、地域リーダー(村長や村の役員など)といった地域の政治的立場にある人ではなく、コミュニティ内で開発を促す人のことを指す。本研究では、タイの農村開発 NGO の事例を通して農民の自立を促す参加型開発手法における農民リーダーの役割を考察する。

2. 事例概要

タイ北部ナコンサワン県タキアンルアン行政区(行政区は 12 の村からなる)は、主要産業はバナナプランテーションである。2000 年に農民の収入向上を目的として行われた農業開発プロジェクトでは、村で大きな問題となっている生産コスト増加の解決方法として、低コストでできる有機肥料栽培を取り入れることにした。ECVF による参加型ワークショップが開かれ、各村から代表者たちが集まり堆肥作りなどを学んだ。このワークショップに参加した代表者は各村のリーダーとなり、それぞれの村でグループを組織し有機肥料作りを普及する役割を期待されていた。そこで農民リーダーが開発プロジェクトにどのような影響を与えたのか明らかにするために、参与観察、インタビュー調査、アンケート調査を行った。

3. 農民リーダーの役割

(1) 有機肥料栽培の導入と展開

2 つの村において農民グループが組織された。農民リーダーは各自の村に戻った後、有機肥料作りを行うグループを結成し、資金を得て共同で有機肥料作りの勉強を兼ねた共同作業を行った。グループ活動に参加した農民たちはその後、有機肥料工場の建設・運営へと活動を展開し、有機肥料の普及は行政区全体へと広がった。

(2) 使用有機肥料の多様化

実際に有機肥料を施用して生産コストを下げ、作物の品質向上および土壌改良の成果をあげた農民リーダーが、新しく挑戦しようとする農民にとっての先例となった。農民リーダーの活動がきっかけとなり、行政区では現在、自家製堆肥・工場の肥料・市販有機肥料などの多様な肥料の利用がみられている。

(3) 自発的な有機肥料栽培の普及と活性化

農民リーダーは、新しく有機肥料栽培に挑戦しようとする農民に対して、圃場見学を受け入れたり技術指導などを行ったりしている。また、農民リーダーは有機肥料栽培や無農薬栽培について他県など先進地へ出かけて学んだり、有機肥料栽培のバナナや野菜として付加価値をつけた販売に取り組んだりしている。このように農民リーダーが自発的に行政区の内外において村人と交流・普及することによって、発展が活性化される。

4. これからの開発にむけて

農民の中からリーダーを育成する手法によって農民の自立を促した。開発の中心となる人物が地域内にいることは、その地域の自立につながる。NGO の支援というと地域密着型と思われがちだが、地域内部のリーダーへの支援という距離をおいた開発援助活動は、地域の自立にむけた有効な方法であると思われる。